現職研修委員会　社会科部報

羅針盤

２１９号
令和５年　２月24日.

社会科部　情報活用委員会

子供たちと幸せな未来を拓く

大門小学校　校長　石原　真吾

「社会的な見方・考え方」。小学校学習指導要領　社会科においては「社会的事象を、位置や空間的広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」としています。これを子供に身につけさせる際、実際の授業のなかで指導者の社会に対する「見方・考え方」が入るのは必定といえます。

20 代の頃、社会科授業の学習会が時には週一で行われ、先輩に誘われて恐る恐る参加しました。そこには A 先生がいて、大学の研究者の立場から常に私が思ってもいない切り口で社会的事象を分析してくださいました。その時間が心地よくて、自分の実践が切り刻まれる恐怖を凌駕したのを覚えています。私たちは多面的、多角的な見方を子供に要求しますが、つまるところ、教師の視野の広さ、視点の置き方次第で子供の追究は浅くも深くもなるということに実感的に気付かされた時間でした。私次第なのだと。

さて、社会科は公民の育成を旨としています。幸せの保障は公民的資質の中心にあると言えます。幸せと言えば、「幸福度 NO.1」という国別ランキングがあります。ランキングの選考基準は①人口当たりの GDP、②社会的支援、③健康寿命、④人生の選択の自由度、⑤寛容さ・気前の良さ、⑥腐敗の認識です。このランキングにおいて、フィンランドは 2022 年度に５年連続世界１位となりました。日本は 54 位。この２か国の幸せにそんなに違いがあるのだろうかと考えました。

参考までに、フィンランドの国勢をキーワードにして下にまとめてみましたので見てください。

仕事は午後４時まで。男性の産休取得者が８割。女性の就業年数のほうが長い。18 時に帰らない父は父親失格。平均睡眠時間はおとなでも７時間半。

合言葉は「ウェルビーイング」。仕事も大事だが、仕事以外も大事。壁撤廃は性別だけでなく、年齢、経験値、学歴にも及ぶ。

人口の割に広い大地、冬は長いが豊かな自然。木の実取りや狩猟、その後のサウナ。きれいな水の湖に浸かった後、爽やかな風に身を任す。快い疲れと開放感。

７月は１か月夏の休暇。大事な連絡も休み中の人の携帯にせず。パスワードを忘れるくらいしっかり休む。盛んな起業や学びなおし。ワークライフバランスの実現。

余暇に使う「スポーツ・文化チケット」を企業から 1.5 万～3 万円くらい支給。スポーツや大学の講義受講などや映画やコンサートの費用に。一人当たりの GDP は日本の 1.25 倍

出産後、日本はいつでも医者に行けるがフィンランドは２回ほど。だが、妊婦、生活、親に手厚い。１年分の必要物品を全新生児に支給。生まれた時から皆が困らず平等に。

子育ての施設ネウボラ。よさを感じているのはその施設に対してではなく、支えてくれる人に対して。

学習指導要領で気にするのは世界的なテストの結果ではなく子供のウェルビーイング。義務教育は家の近くの公立学校。義務教育は 18 歳まで。高等な知識と個人負担軽減が目的。基本私立校はない。教育費は国費。小学校入学前のプレスクールや飛び級、留年あり。早期教育を望まない国民。長期休みの宿題なし。定期テストはなく単元テストはある。普段の宿題はある。高校は中学時の成績で選考し、入学試験はない。グループ学習。一人一人違う制作物・課題。20 人学級。複数の教師。評価は子供と行う。相対評価はありえない。習い事はいろいろなスポーツを。教師は基本授業を担当。勤務時間内で準備し時間で帰る。担任はいるが相談連絡の窓口的。問題には関係機関と対応。教師は身体的・精神的に重労働という認識が国民にあるから２か月以上の休み。平等感高い。学習塾なし。

参考図書『フィンランド人はなぜ午後４時に仕事が終わるのか』ポプラ新書『フィンランド　幸せのメソッド』（集英社新書）
『フィンランド　豊かさのメソッド』（同）　全て　堀内都喜子

この中に、幸せの質が高いと感じるものがありますか。あるとすると、国民が願う指針ということができそうです。もしも、教師の価値の置き方によってこれからを担う子供たちの考え方にひとかけらでも影響があるとするならば、私たち社会科教師は社会科の見方・考え方を土台にして追究するものに、多くの人たちが幸せになる、平和で民主的な明るい未来をぜひとも据えたいと心から願います。

「授業力・教師力アップセミナー基礎編」報告

竜海中　赤堀　大知

７月２７日（水）に岡崎市中央クリーンセンターにてセミナーが開催されました。多くの先生方に参加していただきました。

前半は、クリーンセンターを見学しながら、環境部清掃施設課の方に、施設の詳しい説明をしていただきました。見学後の質疑応答では、ごみ処理についてより深く理解することができました。最後に指導員の森田先生・安井先生による授業づくりの講義がありました。ごみ処理施設の見学を生かした単元構想や社会科の見方・考え方に着目した学習課題の設定の仕方などのアドバイスをいただきました。これからの授業づくりの参考になりました。

社会科・新任の先生紹介　今年度の社会科部の新任は１３名です！

梅園小	豊田　凌士	**根石小**	菅原　雪見	**六名小**	康本　健吾	**広幡小**	太田　恵那	**井田小**	中根　総子
愛宕小	渡邉　乃恵	**六北小**	浅井　俊博	**六南小**	小島　安也音	**城南小**	谷田川拓真	**北野小**	伊藤　里紗
形埜小	新宮　聖菜	**北　中**	坂井　麻緒	**六北中**	林　美柚紀	（敬称略）			

必見！授業技！

東海中　太田　信

～チーム学習の中で追究の視点を整理する～

【本時までの流れ】

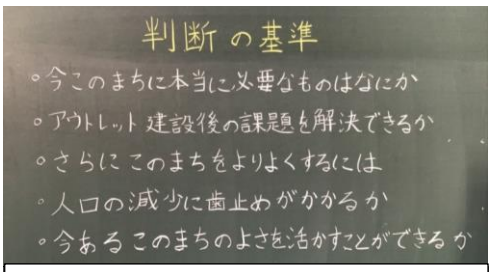
公民的分野「地方自治と私たち」の単元において、学区で計画されているアウトレットモール誘致と、それに伴う、まちづくりを教材化しました。

資料追究や関係者への聞き取りを通して、生徒は「アウトレット誘致を持続可能なまちづくりにつなげるために私たちはどのような要望をすべきだろうか」という課題を設定しました。個が考えた要望内容をチーム内で伝え合い、要望の優先順位をチームで考えました。

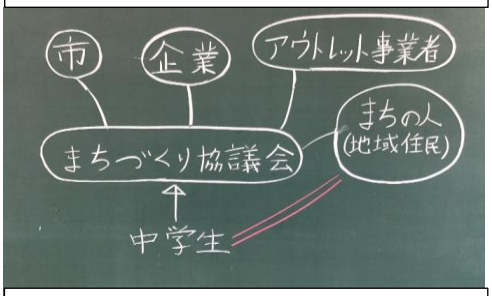
チームでの話し合いを見取った教師は、追究の視点を整理するファシリテーション（＝学びの支援）を行いました。

【チームでの話し合いの際に教師が全体に対して行った視点の整理】

①「みんなはどんな基準で優先順位の判断をしていますか」と発問しました。これにより、生徒が挙げた５つの「判断の基準」を全体で共有しました（【写真１】）。生徒は自分のチームが考えていなかった「判断の基準」で要望の優先順位を見直すことができました。「判断の基準」の整理によって、生徒はまちづくりに参画する際の視点に気付くことができました。



【写真１】生徒が挙げた判断の基準



【写真２】要望先を整理した板書

②「みんなが考えた要望は『だれが』実現するのですか」と発問しました。その後、生徒が挙げた具体的な要望先を板書で整理しました（【写真２】）。生徒はチーム内の要望を「どこに要望すべきか」という視点で追究を進めました。要望に即した要望先を考える活動を通して、生徒はまちづくりに関わる構造を理解できました。

発見！一押し地域教材！

大樹寺小　鳥居　優貴

「総門」「旗掛けの松」「ビスタライン」「遺訓」「地下道」（大樹寺小学区）

★授業への活かし方

〇小学６年生　単元「学びを振り返り、地域のよさを伝える」

〇学習課題

「どうする家康　ロケ地にどうぞ！」

★この教材を使い、工夫した点

① ロケ地としてのおすすめポイントを紹介するという趣旨で意欲を高める

大河ドラマ「どうする家康」のロケ地として、大樹寺学区への関心が高まっています。そこで、ロケ地としてのおすすめポイントを紹介するという趣旨で、意欲的に調べ学習を行いました。１年生のときから学習してきたことを振り返りながら、「総門」や「旗掛けの松」など、家康にゆかりのある物に焦点を当てて調べていきました。その中でも、身近な存在である「体育館へ向かう地下道」については、長年守られてきたビスタラインの景観をこわさないようにという願いから地下にあるということを振り返り、多くの人に伝えたいという思いをもつことができました。

② 大樹寺学区のよさについて、パワーポイントでプレゼンを行う

コロナ対策で大樹寺に観光に来た方に向けてのガイドが行えない中、パワーポイントでのプレゼンを目標にして調べ学習に取り組みました。どうしたら大樹寺学区の魅力を伝えることができるかを意識しながら、掲載内容を精選し、工夫してプレゼンを行いました。